

令和2年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

# 富士のさと わくわくキャンプ ～夏編～

令和2年9月12日（土）～9月13日（日） 1泊2日



## ○目的

- ・体験活動を通して、自ら考え行動する能力を身につけるとともに、課題解決能力を高める。
- ・集団による活動を通して協調性身につけ、人間関係形成能力を育成する。



【集合写真】

## ○参加者

小学校4～6年生 23名

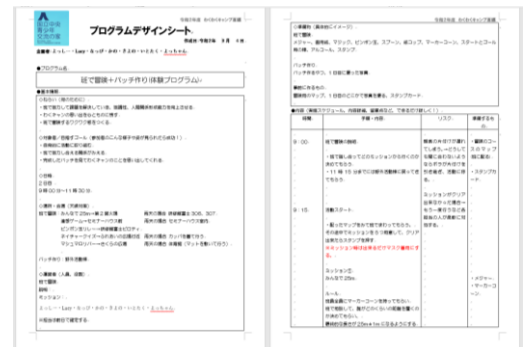
## ○本事業の仕組み

当所で養成したボランティアを中心に、子供対象のプログラムの一部を企画・立案し、当日の運営を行う。

## ○キャンプの企画立案

ボランティア12名と社会教育実習生9名を3つのセクションに分け、セクションごとにお互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
- ※ねらいや手順、想定されるリスクと対応などを記載
- ・職員を交えてセクション別のミーティング
- ・全体進行表、セクション別日程表の作成 等



【プログラムデザインシート】

## ○キャンプ当日の運営

当日の運営は、ボランティアと社会教育実習生、合わせて21名が担った。スタッフは前日から宿泊し、準備や試作、最終的な打ち合わせを行って参加者を出迎えた。

当日は雨天であったため、テントの設営場所を変更した。

## 1日目【9月12日（土）】



《はじめの会》

よろしくね!のごあいさつ



《アイスブレイク》

交流が深まったよ!



《テント設営》

協力してテントをたてよう!



《アウトドアクッキング》  
オリジナル炊き込みご飯を  
作ったよ！



《楽しい食事タイム》  
みんなで食べるとおいしいね！



《ナイトプログラム》  
みんなで輪になって！

## 2日目（9月13日（日））



《朝食づくり》  
カートンドッグを作ろう！



《体験プログラム》  
協力してミッションをクリア！



《おわりの会》  
また会おうね！

### 《参加した子供の声》 ※一部抜粋

- ・とても楽しかった。交流の家のイベントにこれからも参加したいと思った。そして、私が高校生や大学生になったときにこのイベントが続いていたらボランティアとして参加したい。
- ・このキャンプを通して、仲間と協力する楽しさを知り、自然の素晴らしさ、キャンプの楽しさを知った。
- ・テントをたてたり片づけたりするときに、ボランティアに頼らないで自分たちでできた。
- ・初めて会った友達と仲良くなれたのがうれしかった。

### ○キャンプを終えて

#### 《企画メンバーの感想》 ※一部抜粋

- ・二日間を通して、それぞれのプログラムで見せる子どもたちのキラキラした表情や、チームワークや、思いやりのある言動に感動した。
- ・子どもたちは盛り上がってくれていたが、事前研修からプログラムについて深く考えておけば、もっと良いものになっていたのではないかと思い、悔しかった。
- ・昨年度参加した時よりも、子どもとうまく関わる事ができた。

#### 《成果と課題》

わくわくキャンプの目的を意識しながら、プログラム企画段階から職員とボランティアで何度も話し合いを重ねた。その結果、各プログラムの目的が明確になり、子どもたちが自主的に活動する姿や、仲間と協力しながら積極的に活動に取り組む姿が多くみられた。事前の綿密な話し合い、準備が、キャンプの目的を達成することができた一因ではないか考える。

本施設は、ボランティア登録者が非常に多いので、彼らの活躍、成長の場を作っていくのが今後の継続した課題であると考えている。